

2013 NICE にほんごスピーチコンテスト 審査員特別賞 森ヒロミさん(ブラジル)

『ブラジルに移民した日本人』

皆さんこんにちは。

森と申します。私は日系ブラジルの二世です。

ブラジルは日本から最も遠くに有る国の一つです。

ブラジルは日本から見ると地球の反対側に有るので、時差は丁度 12 時間です。



1908 年に、笠戸丸の上客 741 人が、最初の日本人移民として、ブラジルに到着しました。船上の暮らしは快適とはほど遠かった。ベッドが不足していたために床に寝ることもあったし、質素な食事が続き大変な精神力が必要でした。

ブラジルの港街 サントスに上陸後、サンパウロへ向けて列車で移動する時の山々の亜熱帯の景色は、初めて見た日本人たちに、大きな感銘を与えた。

しかしながら、移民収容所に到着した際により驚いたのは、むしろブラジル人の方でした。

ブラジル人がとりわけ驚かされたは、日本人が他の移民と異なっていたことでした。

ブラジル人はこれまで、これほど躰が行き届き、組織的で清潔な人たちを受け入れたことがなかったのだ。ブラジル人は、その時日本人がこの国で大きな成功を収めると確信しました。

移民たちにはコーヒー農園の、農業に従事する、選択肢以外ほとんどなかった。移民は借地をするために借金をしました。自分の土地を持った後は、整地する必要が有った。たくさん家族が、木を伐採して、焼き、森を切り開き、開拓団地が建てられました。そして、政府により、鉄道の駅の延線工事が行われるのに伴い、ブラジル国内には無数の日本人集落が誕生しました。

1924 年から 1935 年にかけて 141,732 人もの日本人がブラジルに移民しました。

戦後、日本人たちは、もう日本には帰らないと心に決めた。彼らの最初の懸念は子供たちの教育でした。

移民たちの子弟は、優秀な成績で大学を卒業し、少しずつ、病院や事務所、銀行などの職業に進出しました。そして、ついに社会的地位を勝ち得たのだ。

日本文化がブラジルへ与えた影響の大きさは、サンパウロが世界で最も日本的な都市であることを挙げれば良いでしょう。

政治や経済の関係以上に、両国は深い愛情の絆を、それも簡単に解くことの出来ないほどの関係を築いてます。

この日本人のおかげでブラジルがより良い国になりました。

NICEの皆様、友達、私の拙い話をお聞き頂き、誠にありがとうございました。